

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
心豊かで、自ら学び たくましく生きる児童の育成 目指す子ども像 ・言える子 ・聞ける子 ・動ける子	・よくわかり充実感のある授業の想像 ・コミュニケーション能力の育成 ・未来を拓く力の育成 ・保護者・地域との連携

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>算数Aについては、県平均と比べると正答率が高く、国語Aは同程度である。 国語B、算数Bについては、県平均と比べると正答率が低い。 国語A・Bの「言語についての知識・理解」は県平均を上回るが、「読むこと」「書くこと」「話す・聞くこと」については課題がある。記述式の正答率が低い。 算数Aの「数と計算」「量と測定」「図形」については県平均を上回るが、「数量関係」については課題がある。 算数Bの「図形」は県平均を上回るが、「数と計算」「数量関係」については課題がある。特に、記述式の正答率が低い。</p> <p>県</p> <p>4教科とも昨年度より正答率が向上。県平均と比べると正答率が高い。 国語・社会・理科については、A・B問題とも県平均を上回る。算数科については、A問題は県平均を上回るが、B問題は県平均並みである。 資料を基にして説明したり、論理的に考えを説明したりするなどの表現力・思考力に課題がある。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>自己肯定感が高く、学校が楽しいと感じている。 規範意識が高く、いじめは許されない、人の役に立ちたいと考えている。 平日の家庭での学習時間(1時間以上)の割合が、県平均に比べて多いが、休日の学習時間は少ない。 家庭学習で宿題は必ずするが、それ以外の予・復習や誤答問題の克服等はしていない。 平日にテレビやゲームなどを1時間以上視聴する児童の割合は県平均並みである。 読書は好きで、1日あたりの読書時間は県平均より長いが、読書量は多いとは言えない。 あいさつはよくできており、地域の行事にもよく参加している。 授業の中で、自分の考えを発表したり話し合ったりする活動がよくできている。 国語・算数とも記述問題が苦手であり、意欲も低い。 考えや解き方を説明したり、資料と関連付けて説明したりすることに大きな抵抗がある。 難しいことや新しいことに出会った時、チャレンジする意識が低い。</p>
---	---

成果と課題	課題に対応した改善方法
睡眠時間・テレビやゲームの時間など、家庭での生活が安定している。 自己肯定感や規範意識が高い。 国語・算数ともに、基礎・基本的な知識・技能はあるが、活用型の問題を苦手としている。 授業の中に学び合いを取り入れた成果が現れ、話すことへの抵抗感が減ってきた。 文章を読むことに大きな抵抗があり、文意を汲み取りながら読むこと、目的や意図に応じて複数の内容を関連づけて読むこと、文章の構成を考えながら読むことができていない。また、文章の読み取りに時間がかかり、複雑な文章については読むことをあきらめる傾向がある。 書くことに抵抗があり、目的や意図に応じて必要な内容を適切に書くことができない。 家庭学習で宿題以外の学習に取り組んでいない。 読書をする児童としない児童の二極化が進み、読書への取り組み方が課題である。 学力の二極化、低位の児童の固定化が課題である。	授業の中に、自分の考えを書いたり、まとめたり、説明したりするなどの書く活動を取り入れる。(書く) 新聞や新しい文章に触れる機会を授業で増やし、要旨をまとめる活動を取り入れる。(書く) 段階を追って読書活動を進め、語彙力や読解力を養う。(読む) ・学年必読書は全部読む。読書ノートの活用、読書活動に感想やあらすじ・紹介文などの書く活動を取り入れる。 基礎・基本力の定着のため、チャレンジ学習に取り組む。(漢字・計算・読み取り) 学力・学習状況調査の問題(特にB問題)を授業で活用する。 必要に応じて到達度確認テストを活用し、定着が不十分な問題については、繰り返し授業や家庭学習等で復習する。 学力支援が必要な児童に対しては、放課後の補充学習を週1回行い、基礎力の向上と定着を図る。 家庭学習に発展的な内容のものも取り入れたりと、自主学習で予・復習にも取り組ませる。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
5・6年生対象に学力定着状況テストの実施(2月)・・・学力テストの問題の活用 児童への学習・生活アンケート実施(学期1回) 授業評価シートの活用(学期1回) 読書数調査	「書くこと」「読むこと」に抵抗がある児童の割合を県平均レベルに引き上げる。 学力テストのB問題(過去問題)の正答率を5割以上にする。 必読書20冊を必ず読む。